

令和3年 4年度期 第1回 世田谷区子ども・青少年協議会 会議録

開催日時

令和3年8月4日(水) 14時～16時

開催場所

世田谷区役所 区議会大会議室

出席委員

入澤充 志村健一 阿久津皇 高橋昭彦 中山みずほ 田中優子 林大介

森岡美佳 臼井昌章 膳場美帆 明石真弓 岡崎美恵子 藤原由佳 勢能克彦

廣岡武明 下村一 奥村啓 新井佑 近藤三知香 増田名那

齋藤ファトゥ樹音慈縁 丹羽有彩

事務局

子ども・若者部長 柳澤純 児童相談所長 土橋俊彦

生涯学習部長 内田潤一 若者支援担当課長・子ども育成推進課長 山本久美子

児童課長 須田健志 子ども家庭課長 中西明子

児童相談支援課長 木田良徳 生涯学習・地域学校連携課 谷澤真一郎

会議公開の可否

公開

傍聴人

0人

会議次第

- 1 開 会
- 2 区長挨拶
- 3 進行説明
- 4 委員紹介
- 5 会長・副会長選任
- 6 審議議案依頼
- 7 若者支援事業説明
- 8 今後の検討の方向性等について
- 9 その他
- 10 閉 会

午後2時開会

事務局 では、定刻になりましたので、令和3年 - 4年度期第1回世田谷区子ども・青少年協議会を開催いたします。

本日は、お忙しい中、また、コロナの中ということで、大変恐縮ではございますが、ご出席いただきましてありがとうございます。本日、期が替わりまして初めての回ということもございまして、マスクの着用と消毒、部屋の換気などを徹底いたしまして、開催させていただくことといたしました。皆様のご理解とご協力をどうぞよろしく願います。議事に入るまでの間、事務局として進行を務めさせていただきます若者支援担当課の山本と申します。どうぞよろしく願います。

今期、子ども・青少年協議会の第1回目でございますので、皆様の机の上に委嘱状を配付させていただいております。後ほどご確認いただきますようお願いいたします。

次に、本日の協議会の出欠の状況でございます。事前に大原ななえ委員、田谷雅弘委員、鈴木宏之委員にご欠席ということで連絡をいただいております。本日、2分の1以上の委員の方にご出席いただいておりますので、会議は成立しております。また、本日は、保坂区長にもご出席いただいております。

それでは、会議の開催に当たりまして、区長の保坂より皆様にご挨拶を申し上げます。

区長 皆様、こんにちは。世田谷区長の保坂展人です。

大変お忙しい中、また、先週あたりから、デルタ株ということで、コロナの感染者数も3000人、4000人と過去最高を刻んでおります。世田谷区においても、残念ながら比例をしまして、保健所がなかなか処理できないくらいの数多い感染増となっております。そういった中、子どもたちや若者たちの日々の暮らし、生活環境の中にも、1年半に及ぶこのコロナ禍というのは大変大きな影響を与えているものと思います。そういった中で、今日こうしてお集まりをいただいて議論を開始するというごこと、お忙しい中をお時間を割いていただいたことに心から感謝をいたします。

振り返れば、世田谷区で若者支援と命名した若者支援担当課、専管組織が立ち上がって9年目となります。希望丘青少年交流センター、アップスという愛称も大分広がってまいりました。そして、ツイッターを使って「情熱せたがや、始めました。」、「ねつせた！」のように、この協議会のご提言やモデル事業として計画をして、具体化した施策が、今、若者世代がしっかり担いながら取り組んでいるということもご報告しておきたいと思っております。

また、ひきこもり施策としては、当事者、ご家族の周囲になかなか相談をできない苦しい環境の中で、ご家族や当事者が相談できて、当事者が自分と同じ経験を持つ仲間として集う、居場所機能を備えた、メルクマールせたがやの取組も続けてまいりました。池尻のものづくり学校に拠点を置いていますので、区の都心寄りになりますが、5地域でサテライト機能を発揮するという取組も整えているところでございます。世田谷区では、令和3年4月にひきこもり支援に係る基本方針を立てました。ひきこもりの支援機関としてはメルクマールせたがやと、現在、このコロナ禍での緊急の貸付け、住宅確保給付金などの窓口として、多くの区民の方がアクセスされている生活困窮者支援機関のぷらっとホーム世田谷がでございます。実は、法律上の線引きで子ども・若者総合相談対象は40歳未満になっておりまして、40歳以上のひきこもりのつらさを抱えている人たちは、このぷらっとホーム世田谷でこれまで取り組んできた状況もでございます。そこで、来年4月には、この両機関と一緒に、三軒茶屋の現在図書館ターミナルがある建物、S T Kハイツに移転をして、共通窓口をつくりながら役割分担をしていく予定でございます。また、せたがや若者サポートステーションとともに、三軒茶屋のS T Kハイツに入る予定です。

前期の協議会では、「若者の力が活きる地域～意見表明・参加・参画を中心に」という議案を受けて、若者が自らに関わることや関心を寄せる事柄について、考えや意見を日常的に伝えられるような環境づくりの実現に向けた検討を進めていただきました。このコロナ禍の長期化を受け、モデル事業として検証を行うという当初の予定については、やり方等、見直しをせざるを得ない状況もありましたが、その中から見えてきた視点、課題もたくさんあったと伺っています。委員の皆様には、それらの経験、認識を引き継いでいただいて、今期協議会で若者委員の皆さんも交えながらご議論いただいて、若者政策のさらなる前進を区としても目指していきたいと思っております。

少々長くなりましたが、本協議会の新しい議論に当たって、区長としてのご挨拶に代えたいと思っております。どうかよろしく申し上げます。

事務局 ありがとうございました。

それでは、まず、お手元の配付資料を確認させていただきます。一番上に次第がございます。クリップ留めしている資料ですが、右上に資料番号が振ってございますものは、この後、説明等で併せてご覧いただくものとなっております。そのほかに、参考資料を手提げ袋の中にまとめて置かせていただいております。荷物となりますけれども、こちらは後ほどご覧いただければと思います。また、以前から委員となっておられる方には、

一部、お渡し済みの方もいらっしゃるかと思います。既にお持ちのものは、そのまま席上に置いてお帰りいただければと思います。では、配付資料につきましては、資料1から10まで、それから机上配付のものが2種類と、参考資料としまして3種類のものがございます。この場での資料確認は、これで割愛させていただきます。

続きまして、協議会の進行について簡単に説明させていただきます。まず、資料1の世田谷区子ども・青少年協議会についてをご覧ください。まず、1、法的位置付けにつきましては、地方青少年問題協議会法に基づき、世田谷区子ども・青少年協議会条例により設置された区長の附属機関となっております。協議会の会長、副会長は互選により定めるとしており、協議会の下には、具体的な作業や検討を行う小委員会の設置ができるとなっております。後ほど資料2の世田谷区子ども・青少年協議会関係条例・規則でご確認いただければと存じます。

続きまして、資料1に戻りまして、2の委員の任期でございます。委員の任期は2年でございます。

続きまして、3の子ども・青少年協議会の体系図でございます。こちらは、区長が本協議会に対し、審議すべき議案の調査、審議を依頼いたします。本協議会は、2年の期間をかけまして、協議会及び小委員会において、委員の皆様で調査、審議をしていただきまして、意見を取りまとめていただき、区長へ報告、提言していただく形式で進めてまいります。本日は、後ほど審議いただく議案を区長より皆様にお受けいただくことになっております。

なお、協議会は会議録を作成するに当たり、正確を期すために速記者を出席させることをあらかじめご了承願いたいと思います。ご発言の際には、事務局よりマイクをお渡しいたしますので、ご協力をお願いいたします。

次に、事務局の幹部職員を紹介させていただきます。

まず、子ども・若者部長、柳澤でございます。

次に、子ども育成推進課長、また、若者支援担当課長を山本が兼務してございます。よろしく願いいたします。

児童課長、須田でございます。

子ども家庭課長、中西でございます。

児童相談所長、土橋でございます。

児童相談支援課長、木田につきましては、本日、欠席しております。

教育委員会、生涯学習部長、内田でございます。

生涯学習・地域学校連携課長、谷澤でございます。

続きまして、委員の皆様のご紹介です。本来であるならば、お一人お一人、お言葉を頂戴したいところですが、私から簡単に紹介させていただきます。資料3の名簿がございますので、こちらをご覧ください。

それでは、順番にご紹介いたします。

まず、国士舘大学大学院の教授でいらっしゃいます入澤委員。

東洋大学社会学部教授の志村委員。

浦和大学准教授の林委員。

世田谷区議会議員、阿久津委員。

同じく世田谷区議会議員、高橋委員。

同じく世田谷区議会議員、中山委員。

同じく世田谷区議会議員、田中委員。

続きまして、世田谷区青少年委員会元会長、森岡委員。

世田谷区青少年上野毛地区委員会会長、臼井委員。

世田谷区立中学校PTA連合協議会会長、膳場委員。

世田谷区民生委員児童委員協議会主任児童委員部会部会長、明石委員。

公募区民、岡崎委員。

同じく公募区民、藤原委員。

同じく公募区民、勢能委員。

世田谷少年センター所長の渡邊委員はまだいらっしゃっておりません。

メルクマールせたがや施設長、廣岡委員。

希望丘青少年交流センター長、下村委員。

せたがや若者サポートステーション所長、奥村委員。

「情熱せたがや、始めました。」運営委託事業者代表、新井委員。

若者と咲かせるネットワーク・せたがや、近藤委員。

次に、協定大学であります昭和女子大学の学生の増田委員。

同じく協定大学の日本大学文理学科の学生の齋藤委員。

「情熱せたがや、始めました。」メンバーの大学生であります丹羽委員。

ありがとうございました。

それでは、ここで会長と副会長の選任を行います。どなたか立候補、またはご推薦をいただける方はいらっしゃいますでしょうか。

委員 会長に入澤委員、そして、副会長に志村委員を推薦したいと思います。いかがでしょうか。

事務局 ありがとうございます。今、会長に入澤委員を、副会長に志村委員を推薦することでご発言をいただきました。そのほかございますでしょうか。よろしいですか。

それでは、入澤委員に会長、そして、志村委員に副会長をお願いしたいと考えますが、いかがですか。ご承認の方は拍手をお願いいたします。

〔拍手〕

事務局 ありがとうございます。では、入澤会長と志村副会長ということで、どうぞよろしくをお願いいたします。

それでは、初めに、入澤会長より就任のご挨拶をお願いいたします。

会長 入澤でございます。どうぞよろしくをお願いいたします。

国土館大学の法学部でスポーツ法学を担当しています。専門は教育法学とスポーツ法学です。現在行われているオリンピックは、私たちのスポーツ法学に課題をたくさん与えてくれておりますが、今後、我々の研究も広がるものと思います。

また、私は前期まで森田会長の下で、この会議体のメンバーでございました。今回から、今、会長に推されましたので、よろしくをお願いいたします。最初にお断りしておきませんが、前期委員の方は森田会長をご存じだと思います。ただしあのバイタリティーは私にはございません。森田先生のようなバイタリティーではなくて、会議体をリードしていきたいと思いますので、よろしくをお願いいたします。

前期協議会には、私も参加しておりましたが、この会議体の非常にいいところは、委員の方々の積極的な発言があって、それが答申に生かされて、世田谷区の施策に生きているということです。今回もそのようなことになっていけばいいと思っておりますので、よろしくをお願いいたします。

また、先ほど区長からお話がありました新型コロナウイルス問題は、解決の見通しが全く見えない状況にあります。ご承知のようにこのコロナ問題は学校教育に大きな影響を与えております。大学教育に限って申し上げますと、昨年問題になったときにオンライン教育が進みましたが、最初は手探りでした。しかし、教員も、学生も非常に熱心にオンライ

ンに取り組んだ成果が出ています。オンラインによる大量の課題もきちんと提出し、以前より学習時間が増えたという報告もありました。しかし、それは長続きせずオンライン授業が長くなってくると、学生は課題疲れ、教員は教材づくり疲れで非常に疲弊してきました。学生は、その間、ひきこもりになる傾向も多々見られました。もうオンラインは嫌だと言って拒否する学生がでてきたのです。このような学生が社会とのつながりをここで絶ってしまうことは絶対に避けなければなりません。私自身も学生に同情しながらも、何とかしなければいけないと思っております。

さて、本会議は、これまで毎回ごとに検討テーマに関する議論を重ね、小委員会でもワーキンググループをつくって、実りあるもの、充実するものにしてきました。今後もこのような方法で、継続して議論していただければと思っております。この会議体は連続性のある会議体でございますので、委員の方々のご協力を得まして、2年後に立派な答申が出せればと思っております。皆さん、どうぞよろしく願います。

事務局 ありがとうございます。

では、続きまして、資料4をご覧ください。この場で、保坂区長より入澤会長にこの審議議案をお渡ししまして、審議の依頼をいたします。

区長 読み上げます。

令和3年7月15日。

世田谷区子ども・青少年協議会様。

世田谷区長、保坂展人。

地方青少年問題協議会法第2条第1項第1号の規定に基づき、下記について調査、審議願います。「若者とともに変わる地域～若者の視点で」。

よろしく願います。

事務局 会長、区長、ありがとうございます。

それでは、ここからの議事につきましては、会長に引き継がせていただきます。会長、どうぞよろしく願います。

会長 それでは、早速議事を進めさせていただきます。

まず、本日は、時間の都合により、協議会の今後に関する説明の前に、区が取り組んできた若者支援の代表的な事業について説明する時間とさせていただきます。駆け足になりますが、各運営事業者から説明いただきます。お手元の資料7から資料10、4つの事業についてです。スクリーンにも投影いたしますので、ご覧になりながらお聞きください。ま

た、質問等がございましたら、後ほど質疑応答の時間をお願いいたします。では、順をお願いいたします。

委員 では、改めまして、メルクマールせたがやの廣岡です。本日はよろしくをお願いいたします。私は、前期に引き続きこの委員を務めさせていただきます。今回は、第1回目ということで、メルクマールせたがやの事業紹介をさせていただきたいと思います。皆様のお手元に、資料7、メルクマールせたがや事業説明というパワーポイントで作成した資料が届いているかと思っておりますので、スクリーンをご覧ください結構ですし、お手元の資料をご覧くださいながらお話を聞いていただければと思います。

では、世田谷区の若者支援の中で、メルクマールせたがやの位置づけを説明させていただきます。

区の基本計画の中で、若者の支援施策として、若者の活動と交流の推進、若者の社会的自立の促進、そして、3つ目に生きづらさを抱えた若者の支援ということで、メルクマールせたがやは、この3点目の生きづらさを抱えた若者の支援を中心に担っている機関になります。

若者総合支援センターとしまして、メルクマールせたがやは平成26年9月に開設し、いわゆる相談と居場所ということで、まずは社会参加に向けた準備の支援を中心に取り組んでおります。家から一歩踏み出すところから支援をさせていただいて、その先に、就労にステップアップしていく若者につきましては、すぐお隣にせたがや若者サポートステーションがございますので、そちらと伴走しながら並行支援を続けております。

事業概要ですけれども、メルクマールせたがやは、ものづくり学校の3階で活動しております。主な対象としましては、不登校、ひきこもり等生きづらさを抱えた中高生世代から39歳までの区民の若者及びそのご家族となっております。また、そのほかに、協定大学である昭和女子大学と日本大学文理学部の学生及びそのご家族もご利用いただけます。

こちらが主な活動をまとめたスライドになりますが、来所相談、利用登録制の居場所、家族会、そして訪問・機関連携といったアウトリーチの活動を行っております。私どもは、まずは初回の相談で丁寧にお話を伺いながら、そこを利用の入り口として、他者との交流や、どこか出かけられる場所ということで、居場所につながっていったり、まずはご家族の方から利用につながるということもありますので、家族会も月に1回定例で開催しております。

若者総合支援センターの居場所プログラムとして、平成30年度から「メルサポ」という

取り組みも行っています。こちらは気軽にふらっと立ち寄れる居場所ということをもっと一に開設し、新たに取り組んでいるんですけれども、こちらはサポステの職員とメルクマールの職員が一緒になって居場所活動を行っております。実際、メルクマールの利用の方がこの取り組みに参加することでサポステを身近に感じ、利用につながったこともございます。

では、お時間もありますので、ちょっとかいつまんで進めさせていただきます。11スライド目が出張相談会の紹介になるんですが、区長のお話の中でも紹介していただいたように、メルクマールせたがやは池尻に拠点がございますが、世田谷は5地域に分かれておりますので、アウトリーチ活動の一環として、5つの総合支所の区民相談室を利用して、定例で出張相談会を開催しております。烏山地域は令和3年度からは月に1回の頻度に上げておまして、ほかの地域はまだ隔月に1回になります。また、青少年交流センターのアップスにつきましては、以前から出張相談会を定例で開催しております。

コロナ禍の影響につきましては、令和2年度の新規相談者の抱える課題・主訴として、事業報告書の中でも記載していますが、やはり外出、対人交流の機会の減少が大きく影響として出ているということがございます。オンラインがいろいろ普及はしたところではありますけれども、直接的な交流が減少しているということは、やはり若者の生きづらさにつながっているということがデータとしても出てまいりました。

本日配付されております資料の中にも令和2年度の事業報告書がございますので、詳しくはそちらもご覧いただければと思います。

私からは以上になります。ありがとうございます。

会長 ありがとうございます。

続きまして、せたがや若者サポートステーション、お願いいたします。

委員 改めまして、せたがや若者サポートステーションの奥村と申します。今年度、委員を務めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

私からも、せたがやサポステの事業概要等を説明させていただきます。

簡単な事業概要ですけれども、私たちは厚生労働省の事業として、15歳から49歳の方に向けての支援を行っています。段階的支援ということで、面談からスタートしまして、お話の中で出てくる本人の悩みだったり、解決の方向性を考えていきながら、それぞれに合わせたプログラムを受けていただき、必要に応じて職場体験などをやっていきながら、就職に向けての準備をしているところになります。

直近の実績を掲載してあるんですけども、登録者数に関しては、以前までは男性のほうが利用が多かったんですが、ここ2年ほど女性利用者が半数を超えているというところが一つ特徴なのと、進路決定に関しては、やはり昨年度はどうしてもコロナの影響もあるかと思うんですけども、少し落ち込みがありました。

次に、令和2年度の特徴的な取組ということで、やはりコロナで利用者との関係性を維持させていくことが大事だということもあって、電話やメールでのこれまでの相談の対応に加えて、Zoomでの面談を実施したり、面接でオンラインを活用している企業さんも多いので、Zoomの使い方だったり、オンラインの面接セミナーも開催いたしました。

また、昨年度から、サポステの支援対象年齢が49歳と、氷河期世代向けの支援を行うことになりましたので、まずは、そちらの支援が始まったことを周知するために、ハローワークのミドル世代のコーナー、世田谷区内にあるぷらっとホーム世田谷、8050問題のような対応をしている地域包括支援センターであるあんしんすこやかセンターなどへの定期訪問や、情報交換を実施させていただきました。昨年度の実績としましては、40代の方が20名ほど新規登録されまして、4名ほどの実績がありました。就職先としては、清掃、事務、介護などの仕事に就職をしていきました。

今年度も事業概要としては同じなんですけれども、本年度に取り組んでいるものをここでご紹介させていただきます。

まず入り口の段階ということで、コロナで活動が制限されている中で、私たちもどのように情報を届けるかとか、利用者に知ってもらおうかということをいろいろと考えました。ホームページ、ツイッターなどこれまでのツールに加えて、最近はスタッフが出演しているYouTube動画も作っていて、プログラムの情報や、就職に役立つ情報を紹介することで、周知だったり、利用者の増加につなげていこうということで、情報発信に力を入れています。

次に、中身の支援についてです。こちらもこれまでも取組は行っているんですが、利用者の段階に合わせて、区内の様々な資源を活用してプログラムを実施していくことで、私たちの支援の質を向上させていくということに力を入れています。先ほどのメルクマールとの共催のプログラムだったり、青少年交流センターでの活動だったり、地域のイベント等を活用して支援を行っています。

最後は、出口支援に関してですが、働き方も今多様化していますので、利用者の現状に合わせた形で、区内の支援事業だったり、ハローワークを活用したセミナーなどを開催し

て、先方の担当の方と顔の見える関係をつくって、出口につなげています。具体的には、「世田谷で働こう!」「Setagaya Work & Plus!」など、区内の企業で働くとか、短時間、短期間の就労を考えている方々に合わせた支援も行っています。

最後に、今後に向けてということで、先ほど保坂区長からもお話があったように、来年度以降、より連携して取組をしていきたいと思っています。簡単なご説明ではありましたが、私からの報告とさせていただきます。ご清聴どうもありがとうございました。

会長 ありがとうございました。

続きまして、青少年交流センターについて、お願いいたします。

委員 希望丘青少年交流センターの下村と申します。

現在、世田谷区には3つの青少年交流センターがあります。野毛の青少年交流センター、それから、今年の4月1日から池之上も名前が青少年交流センターに変わりましたが、池之上、それと、一番最後にできた希望丘の3施設があります。

基本的な情報としては、主な対象は中高生から20代の若者、登録してご利用いただけるのは、小学生から39歳までの若者という形になっています。どの施設もできるだけ長く若者がいつでもふらっと来られるようにということで、コロナ以前は開館時間が9時から22時、野毛は21時ということで、長い時間開けているのが一つの特徴です。現在は20時までということで時間は短縮しています。そのほか、若者から「やっぱりフリーWi-Fiはあってほしい」、それから「携帯の充電はどうしてもしたい」というような意見があって、この辺を青少年交流センターではインフラと考えて、導入しています。

コンセプトは、それぞれの施設で特徴がありますが、基本的には若者それぞれが自分らしく過ごせる居場所ということ、それから、ユースワーカーというスタッフがいますので、スタッフとの話の中で気軽に自分の意見を表明する、その表明した中から自分たちのやりたいことを一つの活動にしていくということが大きな柱になっています。その中でも、自然な形で地域と連携したり、地域のいろんな世代の方たちと交流をして、若者の成長を促すというようなことがコンセプトになっています。

3センターの利用者の年齢層ですけれども、基本的にメインの対象である中高生から20代の若者が約6割から7割ぐらい、そのほかに小学生もいらっしゃいますし、地域の方も少しご利用いただいているというような状況です。

それから、若者の意見表明としては、月に1回、何かやりたいことの会議をしたりとか、運営委員会をしたり、座談会をしたり、ご意見箱を置いたりということで、いろんな

形で若者の意見を聞くようにしています。

やりたいことがあると、いろんなところへぽっと貼って、意見表明ができるような形になっています。

これは野毛の月1の会議の様子です。何をやるかということ、毎月1回、みんなで話し合って決めています。

これも池之上の月1の会議の様子です。

こうした会議で決まったことを一つずつ形にしていくというような形で、この写真は先日やった池之上でのe-sports大会、それから、この写真はコロナ以前でしたけれども、地域の方から竹をご提供いただいて、みんなで竹を加工して流しそうめんをしたり、アップスはホールがありますので、みんなでライブをやりたいというような意見を聞いて、感染の対策をしっかりとした上でライブをやった様子。それから、そういう若者のやりたいというような活動をしていくと、施設の中で自分たちの活動だけじゃなくて、地域の環境問題に取り組みたいという若者が少しずつ出てきて、この写真は地域で行った取組です。

基本的に、青少年交流センターは誰でも来られるユニバーサルな支援がメインですけれども、就労支援プログラムについてはターゲット支援という形で行っています。そのほかにも配慮が必要な若者がいたときには、専門機関と連携をしています。

この写真は就労支援のプログラムで、アップスの場合にはカフェがありますので、カフェを使って就労の体験をしたり、支援をしたりしています。

この写真は野毛で、畑を活用して、働くまでの心と体の準備をする形で、決まった時間に集まって、みんなで活動をするということをしています。

以上が3つのセンターの事業説明になります。ありがとうございました。

会長 ありがとうございました。

それでは最後に、「ねつせた!」、お願いいたします。

委員 「ねつせた!」の受託をさせていただいておりますNPO法人neomuraの新井と申します。よろしく願いいたします。

そもそも「ねつせた!」とはというところからご説明させていただきますが、まずは見たほうが早いということもあって、QRコードを幾つかご用意させていただきました。ツイッター、フェイスブック、インスタグラム、note、ユーチューブがありますので、それぞれ見ていただきながら話を聞いていただければなと思っていますし、あとは、ぜひ

フォローをしていただけると、すごく学生の力になりますので、よろしくお願いいたします。

「ねつせた！」とは、世田谷区子ども・青少年協議会で生まれた若者による若者のための世田谷区公認のメディアという立ち位置でやっております。

「ねつせた！」のメンバーの構成なんですが、今日も来ていますけれども、主に現役の大学生や高校生を中心に合計27名で構成しています。前は大学生だったけれども今は社会人という者も今2名いますが、基本的には現役の大学生、高校生が中心となっております。

「ねつせた！」が解決したい問題ですが、以前もこちらの委員会で議題に挙がった、若者世代になかなか情報がリーチできていないということの一つ問題意識として持っております。

「ねつせた！」が設定する課題として、世田谷区の若者に世田谷区の魅力を提供することが挙げられます。若者を応援できる情報をもっと深く届けるためには、1つは若者主体でやっていくということ、もう一つがSNSの活用が重要ということで、若者の参加・参画の機会拡充のためにこの取組自体をモデル事業化したという経緯がございます。

まず、若者主体の「ねつせた！」につきましては、「このまちで主役になろう」という目標を掲げています。ここでいう主役というのは、リーダーとか、偉い人という意味じゃなくて、自分の人生の物語を選んでいくということが主役というふうに若者たちが定義づけております。その中で、2つの思いを込めているんですけども、1つは、「ねつせた！」を通じて、メンバーが自分の物語を描く主役になれるように主体的に行動していこうよという思い、そしてもう一つが、情報の受け手も主役になれるような、そのきっかけを与える情報を届ける、若者の背中を押せるような情報を届けようという思いを込めております。

その思いの中で、一つユニークな特徴としては、プロジェクト制というのをしております。これは純粋に若者たちがやりたいということをや、実現するプロジェクトという形で、大小様々なプロジェクトが今まで生まれてきました。

例えば、組織運営をどうしていこうかということを考える組織プロジェクトとか、第三の居場所というのは中高生にこそ必要なんじゃないかという課題意識をプロジェクト化した居場所プロジェクト。区役所といっても、若者にとってはなかなか何をやっているか分からないという声があったことから、プロジェクト化して区役所職員にインタビューしよ

うということとか、区境ハイクといって、趣味の町歩きを活かして、区境を全部歩いてユーチューブに載せるプロジェクト。他にもWEBプロジェクト、高校生がやるプロジェクトなど、様々な活動をやっています。

「ねつせた！」のユニークなポイントとして、SNS活用というのがあります。これは実際に画面などで見ていただければと思うんですが、ツイッター、インスタグラムはこんな感じで投稿しております。

次に、実績です。実際に今、閲覧数、投稿数はこのくらいの数字を出しております、コロナがあったので数字的になかなか伸びなかったんですが、メンバーたちの頑張り、保坂区長のリツイートとかでかなり盛り上げてくださりまして、今、閲覧数、投稿数ともに底上げをしている状況でございます。

また、主体性をより育むため、名刺のデザインを変えて、より当事者意識を持てるようなデザインにしたり工夫をしています。

最後に、基本となるメディア発信事業を基軸としながら、世田谷区の若者の参加・参画の機会の拡充や、地域におけるサポート、大学、企業との連携などを経て、最終的には独立、自立みたいなどころまでいけるとよいなという構想をしている段階でございます。

以上になります。ありがとうございました。

会長 どうもありがとうございました。4人の委員から現状を説明していただきました。

なお、区長は、他の公務のため、ここで退席をされます。よろしくお願いいたします。

それでは、次の次第に進ませていただきます。今後の協議会につきまして、事務局より、確認や提案事項などをお願いいたします。

事務局 それでは、協議会の今後のスケジュール、検討の体制について提案をさせていただきます。資料5の今後のスケジュール(案)をご覧ください。

協議会は、令和3年度に3回、令和4年度に3回の開催を予定しております。それがこちらの網かけの部分になります。

さらに、今期につきましても小委員会を構成していただき、そこでの調査、検討、議論やモデル事業の試行を協議会にフィードバックする形を考えております。小委員会は令和3年度に6回、令和4年度に7回程度を想定しております。こちらの白抜きの部分になります。

続きまして、小委員会の構成でございます。資料3の委員名簿をご覧ください。右の一

番端に小委員会の欄を設けてございますが、あらかじめ事務局で小委員会の委員の方を予定させていただきました。小委員会の欄に米印となって表記してございます15名の方でございます。なお、小委員会の開催は、全ての委員の皆様には事前通知し、意見をいただいたり、オブザーバー参加いただくなど、柔軟な形で行っていかねばと考えております。

以上でございます。

会長 ありがとうございます。小委員会のメンバーについて、ご提案いただきました。この小委員会は会長が指名ということであり、皆さんの異議がなければ、私はこの15名の皆様に指名したいと考えております。また、2年間の体制についても、これまでを踏まえたスケジュールであり、おおむねこの体制で皆さんと取り組んでいきたいと思っておりますが、よろしいでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

会長 では、よろしくお願いいいたします。ありがとうございます。

テーマに入りますが、先ほど区長より審議議案をいただきました。本日は第1回目となりますが、昨年度期からの引継ぎ事項や経過もございまして、前期まで前副会長を務めていました私から、今後、皆さんと検討していくに当たり、テーマを設定した背景や検討の方向性を区の実情と併せてお話しさせていただきます。ご質問やご意見がございましたら、この後、意見交換の時間をまとめて取りましますので、そこでお願いいいたします。

それでは、早速でございますが、資料6をご覧ください。

まず、国及び都並びに区の動きについて、左上にあります。平成21年に子ども・若者育成支援推進法が制定されましたが、この間の子ども・若者世代に関する動きを国の動き等に抜粋しております。

中段左手には、世田谷区の若者支援に関する経過や政策を掲載しております。平成14年から計画を立てて、事業は平成26年から始まって、令和3年ということで取組がおります。この間、子ども条例及び子ども計画に基づいて、平成25年の若者支援担当課設置から、青少年交流センターや、たからばこ、あいらすといった若者の居場所づくりやメルクマールせたがやなどの生きづらさを抱えた若者の支援などが進められました。この間、子ども・青少年協議会では、その都度、審議、提言が行われ、これらの施策に反映されております。

次に、青少協、この会議体の経過及び若者支援の現状と課題についてです。平成29年から30年度期の検討テーマといたしまして、「若者施策の評価検証と体系化について～区民

の参加と協働を目指して」ということが中のところにお示ししております。課の設置から5年を経過した若者支援の評価、検証と今後の方向性を問い直すため、大規模なアンケートやヒアリング調査を行い、審議を提言にまとめました。この調査からは、若者支援の現状と課題について、以下の3点の特徴が見られたということが報告されています。1点目です。家族や学校といった身近な場以外でのコミュニケーションの希薄さ。2点目に、地域活動や社会貢献への関心の高さがあるものの参加機会に結びついていない現状。3点目に、そんな中で、主体的な活動に参加した経験のある若者には自己肯定感の高さが見られ、コミュニケーションの頻度と自己肯定感、自己有用感には相関関係がうかがわれたということでございます。

令和元年から2年度に関してのテーマは、「若者の力が活きる地域～意見表明・参加・参画を中心に」として、若者が日常的に意見表明できる地域社会の実現のために必要な要素を議論してきました。ただ、この時期はコロナの問題で、外に出るべきところを外に出られなかったということがありますが、若者と関わる大人に必要な要素や若者が安心して意見を言える場所という仮説の下に、各委員の方々の積極的な提案から、以下の3つのモデル事業を構想、試行してまいりました。1が学校でのモデル事業、2が商店街でのモデル事業、3がイベントでのモデル事業。これは、本日、お配りしている報告書の中にそれぞれ詳細がまとめられていますので、お時間のあるときにお読みください。

次に前年度期から引き継ぐ視点についてです。前年度同様、新型コロナウイルス感染拡大による影響が今後もあると思いますが、これまで小委員会をオンラインに変更するなど、試行錯誤を続けてまいりました。モデル事業の試行は変更を余儀なくされ、実証は行えず、前期の提言は、見えてきた成果や課題を次期の検討に引き継ぐものとしてまとめております。

同時に、コロナ禍で様々な影響を受けた若者の声から見えてきた現状や若者支援施設で取り組まれた新たな取組が報告されました。下段真ん中に記述があります。コロナ禍の若者への影響、コロナ禍における新たな取組がここに書かれております。例えば、コロナ禍の若者への影響として、休校や施設閉鎖等による学習面への困難さがあったとか、つながりの希薄化など人間関係への影響、顕著に見られました。新たな取組としては、電話相談やユースワーカーの見守りの継続、さらにオンラインを活用した活動の継続など、そのようなことがあります。

以上の経過を踏まえ、今期は、右側にあります「若者とともに変わる地域～若者の視点

で」を検討テーマにして、前期からの課題や視点を引き継いで、モデル事業の試行をしていきたいと考えております。この中心としては、若者の意見表明、参加・参画の視点による提言、施策案の具体化を進めるということでございます。

今後の検討の方向性について、補足となりますが、以下、2点についてお示しします。青少協の任期は2年となりますが、ここでの検討の成果を施策や令和5年度の事業化に結びつけ実現するためには、来年度の秋には具体策がまとまっていることが必要になってまいります。2年間のうち2年目の秋のタイミングが今後の検討の一つの節目であり、目標となります。目標を定めておりますので、この点をあらかじめ各委員の方々にご承知おきください。

ここから皆様との意見交換の時間といたします。初回ですので、全員のご意見を伺いたいと思います。今期のテーマ「若者ととともに変わる地域～若者の視点で」という視点について、感じておられることやお考えなどをお話しいただくと、今後の検討に反映していきます。また、ここまでの説明内容などへのご質問があれば、併せてお話しください。とはいいいながら、短時間で収めなきゃいけないので、お1人、1分半程度でお願いしたいと思います。ご協力をどうぞお願いいたします。

それでは、区民委員からお願いしたいと思います。

委員 森岡と申します。昨年度に引き続き、こちらの委員会に参加させていただくことになりました。

今年度は「若者ととともに変わる地域」ということで、若者がどのように地域に関わっていくか、去年はコロナの関係で、支援もできないし、子ども・若者たちがどういう活動をしているかというのは地域で量ることができませんでした。子どもたちの遠くから聞こえる声だとかそういう感じで、コロナの中でも子どもたちは健やかに過ごしているのかなと思っておりますが、地域の中で子どもたちが活躍する場というのは、先ほどあったコミュニケーションというところではとても大事で、家族だけじゃなくて、だんだん自分の世界が広がっていくということが、地域では欠かせないと思っております。そんな中で、若者たちとどう関わっていくかというのは、皆様の意見を聞きながら、なるべくみんなといろんな接点があって、いろんな考え方が持てるような幅広い活動ができればいいかなと思っております。どうぞよろしく申し上げます。

会長 どうぞよろしく申し上げます。

続きまして、よろしく申し上げます。

委員 私は初めてなものですから、内容をあまり把握できていないところがあるんですが、私は町会長をしておりますので、今コロナ禍ということで、去年から町会の中でも事業がほとんどできていないというのが現状なんです。それで、特に夏場の事業というのはお子さんとか青少年と関わる機会が非常に多いのですが全然できていない。特にこの夏、7月とかは、ラジオ体操だとか、子ども祭り、ラジオ体操は、うちの町会では5日間やるんですけども、1400名ぐらいがご参加いただいたり、子ども祭りは700名ぐらい、親御さんとおじいちゃん、おばあちゃんまで一緒についてきて、そういうことを2年前までやっていたんですが、今は全然できない。そして、私のほうにも、町会は何もやっていないじゃないかという話があるんですが、今のこの中で、もしもクラスターだとかが発生した場合、町会として責任が持てないということがありますので、やはり自粛せざるを得ないというのが現状で、ご説明しながら何とか納得していただいている現状です。早くコロナが収束してくれることを願っておりますが、これから皆さんのいろいろなご意見を聞きながら参加させていただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

会長 どうもありがとうございました。よろしくお願いいたします。

続きまして、お願いいたします。

委員 膳場です。今年度、どうぞよろしくお願いいたします。

私は世田谷区立中学校PTA連合協議会の会長として今年度就任しましたけれども、今まで小学校のPTA会長を4年、そして、中学校で今年2年連続ということで、計6年間PTA会長を今続けております。その中で、地域と子どもたちが関わることは本当に大切だなというのを保護者としてとても実感してきている中、やはり皆さんも今おっしゃられましたけれども、コロナで地域と子どもたちのつながりというものが本当になくなってしまった。地域の方の寂しいわという声を聞くと、何かできないのかなと思いつつも、やはりコロナという目に見えない怖い菌に対して、私たち保護者も何をしてあげたらいいのかなと本当に感じています。

もう2年目ですよ。ふと今日、近くのママ友に子どもたちみんなコロナの2年目の夏休みをどんなふうに過ごしている？ と話しました。ラジオ体操はない、お祭りもない、学校のプールも、サマースクールも何もかもない状況の中で、子どもたちの居場所というのは、どこに行ったらいいんだろう、子どもというのは学校で勉強だけしていればいいのか、保護者として、学校というところは勉強だけじゃなくいろいろなことを学ぶ場だと思っていますので、何とかしてあげたいなという気持ちが率直な感想です。

今年度、このような会に携わることができて、微力ではありますが、私も何かできたらいいなと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

会長 よろしく願いいたします。ありがとうございました。

続きまして、お願いいたします。

委員 明石です。今回は、商店街チームでいろいろとモデル事業を実施する予定でしたが、やはりコロナの影響がありまして、なかなかできなかったのが、ちょっとやり残した感が残っているなと思っています。今回のテーマを見たときに、「若者とともに変わる地域」ということなんですけれども、これは大人の希望なのかなとちょっと感じました。若者は地域を変えたいと思っているのかどうなのか、そこからではないかなという感じがいたします。若者というのは、地域のことをあまり知らない人が多いなというのが、この委員会を通して感じてきたことです。やはり大人と若者の信頼関係を築いた上で一緒に歩いていくという、基本路線を忘れないようにやっていければいいのかなと思っています。若者には、地域と人と出会うことはわくわくすることであるということと、そこから成長するものがあるということと、今後、伝えていければいいなと思っております。

以上になります。

会長 ありがとうございました。また、よろしくお願いいたします。

続きまして、お願いいたします。

委員 岡崎と申します。私も初めての参加ですし、話すのが割と苦手なので、何を話していいのか考えるところですが、私は今年還暦になったんですけれども、今まで自分で考えてきたような常識というのは大分変わりましたし、コロナでまた今の若者が何を考えているのかとか、息子も2人育てたんですけれども、そこともまた変わってきている現状がありますので、まずは、今の若者たちが本当に何を望んで、何を考えているのかなというところを学びたいなと思っております。

私事ですが、実はいい年になってから大学に通い始めまして、今、音大のピアノ科で4年生をやっているんですけれども、ピアノとかそういうツールを介すと、年は離れてはいるけれども、一つのものに向かって意見し合ったりとか、話が合うなというのは感じております。なので、何かの接点を持ちながら若者と先輩が上手につながって、いいものがつくれたらなと考えております。

以上です。

会長 ありがとうございました。よろしくお願いいたします。

続きまして、お願いいたします。

委員 藤原でございます。私は今、新井委員と一緒に「ねつせた！」のファシリテーターとして、日々、若者と一緒に活動させていただいています。ちょうどコロナに入ってから参加させていただいたので、実は去年1回しか対面で会えていないんです。でも、数えたらオンライン会議は何と150回もあったということで、私はオンライン対応の人みたいになっているんですが、でも、私はもともとこの委員会に参加させていただくときに、若者はパートナーだと、大人が偉くてとかそうことでは全然なくて、一緒、対等であるような地域がいいなと思っていたので、今回の検討テーマのワードについては非常によいと思いますし、若者の視点で地域が変わってくるというのは、本当の意味でゴールだろうなと。

ただ一方で、難しさもすごくあるなと思います。その難しさは何かというと、若者というのは、やっぱり意見がそんなに出ないときもあるし、意見が変わっていくというのが普通だと思うんです。若者に近づいていくということは、コロナ禍であってもなくても同じ区民としてどんどんやっていくべきだと思うので、あまり怖がらずにやっていけばいいんですけれども、答えがないということもある。でも、私たちもその問いかけについて一定のストーリーを何か持っていますかといっても、大人も意外とないことがないですかと私自身は思っているんです。だから、何か枠組みがあると一生懸命頑張れるという若者の声を去年いっぱい聞いてきたので、すごく頼りになるパートナーだと思うんですけれども、大人側もモヤっとしたまま話しかけていっても、お互いモヤっとするみたいなことがあるので、問いとか、自分の考えとか、関わる自分自身の考えを深めていく必要があるなというのをこれまでの活動を通して感じております。よろしく申し上げます。

会長 ありがとうございます。よろしく申し上げます。

続きまして、お願いいたします。

委員 勢能です。私もこの会に初めて参加するわけなんですけれども、以前、世田谷区の別の委員会にも出たことがあるんですが、現在は、世田谷区の社会福祉協議会関係のところでは区民成年後見人等を何人が引き受けてやっています。今までは時間ができて、高齢者のほうの対策をいろいろ練ったり、考えたりしてきたんですけれども、孫ができたこともあって、若者、青少年のこういった委員会にも非常に関心を持ってきたので、参加させていただいているということなんです。

以前の委員会のときもいろいろ感じていたんですけれども、世田谷区で何をやっている

かという情報が世田谷区民にうまく伝わっていないというのがありまして、例えば、今私が申し上げた社会福祉協議会は一体何をやっているのと、世田谷区の人がどれほど知っているのかというと、ほとんど知らないんです。あんしんすこやかセンターというのがあるんですけども、一体何をやっているのかといっても、ほとんど知らない。それから、まちづくりセンターで皆さんが一体何ができるんだといっても、あまりよく分かっていない。だから、世田谷区の情報発信というのももっとあるべきじゃないかということはずっと言い続けてきたんですけども、今日、ここに来ているいろいろ見てみると、世田谷区で、「ねつせた！」ですとかSNSの活用を非常に多くやっているということを知って、どんどんこういう方向に進んでいけばいいのではないかなというふうに感想を持ちました。

以前、世田谷区の行政に若者を参加させるというシンポジウムがあって、そこに参加した際に、若い人たちが出席していて、やる気がある若い人たちが非常に多いというので、感動した記憶があります。ですから、若い人の力をぜひ世田谷区の中でも発揮していただいて、いい世田谷区、住みやすい世田谷区、すばらしい世田谷区になればいいのかなというように思いで、この会に参加させていただいております。よろしく願いいたします。

会長 どうもありがとうございました。

それでは、続きまして、行政側の委員からお願いしたいと思いますが、まだお見えになっていないですね。

それでは、区議会議員の先生方からお願いしたいと思います。お願いします。

委員 阿久津と申します。私もこの検討テーマを見させていただいて、大人の希望のかなと感じたところですけども、将来、地域のことを考えると、やっぱり若者たちに背負っていただかなくてはいけないというのは本当にそのとおりだと思いますし、若者の視点でというのは本当に大切なことだなというふうに思わせていただきました。

私も地域活動をいろいろやる中で、区内の若者は大きく2種類というのか、いろいろ属性はあると思うんですけども、1つは、区内の大学に通って、地方、あるいは区外から来ている子たち、世田谷区内でキャンパスライフだったり、アルバイトだったりというのをしている子たちで、もう一つは、世田谷区内で生まれ育って、小学校、中学校、高校、大学で区外に出て、就職して、もしかしたら、将来また区内に戻ってくる、実家は世田谷にあるみたいな子たちがいると思っています。前者の区内の大学生は、すごく積極的ですし、今日こうやって参加もされているんだと思うんですけども、区の地域の将来を考えると、後者というか、区で生まれ育った子たちをどうやって巻き込んでいくかというのが

大切なのかなと思わせていただきました。そのためには、きっと若者の前、小学校、中学校から巻き込んでいかなきゃいけないのかなと思いましたがけれども、そういったところを議論できたらいいかなと思わせていただきました。ありがとうございました。

会長 ありがとうございます。

続きまして、お願いいたします。

委員 高橋と申します。この協議会には初めて参加をさせていただきます。今日来させていただいて、検討テーマも決まっていますびっくりしましたけれども、「若者とともに変わる地域～若者の視点で」、これを2年間検討していく、非常に難しいテーマだなと実感をしました。先ほどお話もあったとおり、「若者とともに変わる地域」、地域というのは何だろうと思います。地域というのは大人ですか。若者とともに変わる大人がどれだけ世田谷にいるかということかなという実感もします。そうであるならば、この若者の思いというのを大人はどこまで感じられるのかということだと思いました。

先ほど町会長をやられている委員が言われていましたが、実は私も町会長をやっておりまして、また、地元では世田谷消防団の分団長もやっております。分団の中には学生もいますし、若いメンバーもいて、同じ目標に向かって一緒に何を、何を地域のためにやらないかということをお話すると、真剣な目でいろんなことを言ってきます。これをやるべきだ、あれをやるべきだと言ってきます。やっぱり同じベクトルで同じ方向を向いたときの若者の力というのは、僕は非常にわくわくするほどうれしく感じたりもしています。世田谷の若者と一緒に同じものを、目指せるものを何個でもつくれることが大事かなと実感をしております。また、いろいろ勉強もさせていただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

会長 ありがとうございます。

続きまして、お願いいたします。

委員 中山みずほと申します。私は、中学生の息子がおりまして、さっき委員がおっしゃっていたようなコロナ禍の課題は、まさにうなずきながら聞いておりました。あと今、地域の課題とか、地域を変えるという視点は、私もちょっと疑問に思うことがあります。リアルな考えでいくと、今の子どもたちは、既に小中学校でSDGsだとか、道徳の時間にはLGBTの話であったり、社会課題について私たちの頃よりも小さい頃から結構勉強してきているという環境があります。その子たちがそのまま世田谷区で若者になっていくと、地域の課題や世界の課題に対して、実際、動きたい子どもたちもいて、実際に高校生

ぐらいの方から私のところに陳情も来ています。今来ているのは、世田谷区の中でできる気候変動の問題で、この気候変動は世界的にも若い方たちがかなり動いている中で日本はまだまだで、それでももうごめいてはいると感じるんです。先ほど環境サークル「アオミドリ」というのがあると聞いて、それでひらめいて話しているんですけども、そういった子どもたち、若者たちの機会を捉えて、ここにチャンスがあるということを私たちが目配せする。若者たちの自発的な動きの中に、社会の課題が見えることがあり、それが結果、地域の中に落ちてくるというようなことも踏まえて考えたらいいんじゃないかなと思いました。

以上です。

会長 ありがとうございます。

続きまして、お願いいたします。

委員 田中優子です。お世話様です。

私は前期から引き続きなんですけれども、今回のテーマも、やはり皆さんがおっしゃっているように、ちょっと難しい課題かなと思います。と申しますのも、コロナ禍で具体的に若者が参画できる行事、イベントがなかなかないということで、その機会を捉えるのは難しいのかなと思います。今、コロナ禍の一番の犠牲者というのは本当に子どもと若者だなと感じておりまして、ただ、大人よりもSNSを使うのが非常に得意というか、うまいわけです。なので、多くの若者が興味、関心を引くような、あまり固い、難しいテーマではなくて、それこそeスポーツでも何でもいいと思うんですけれども、そういうもので何かイベントをたくさんつくっていったら若者が参加できるような形、ただ、イベント参加のみならず、何かしらの地域との接点を考えられるような意見を求めるとか、何かうまい具合にそういうことができないのかなと思いました。また、どうぞよろしくお願いいたします。

会長 ありがとうございます。

それでは、続きまして、若者代表からご意見をいただければと思います。お願いいたします。

委員 お話を伺って、やっぱりコロナ禍でほかの人と会う機会や、イベントがなくなってしまって、以前よりも居場所とか交流できる場が貴重な機会になっていて、相談できる場所もより必要とされているというのが、自分の経験からも、大学で行っている地域の若者との交流をする活動からもすごく感じるの、そういう体験から感じる課題や、若者の

意見をそのまま正直にここでお伝えできるように活動していきたいなと思いました。

会長 ありがとうございます。ぜひよろしく願いいたします。

続きまして、お願いいたします。

委員 齋藤です。私は今大学2年で、ちょうどコロナ禍に入ったときに大学1年生だったんですけれども、ずっとオンライン授業で対面授業がなくて、実際に大学に友達がいまだにいないんですけれども、その中でも大学と連携しているボランティアとか、そういうものに参加してみると、同じ状況下にいる高校生や中学生とも関わることができて、何かできることがないかなと自分でも考えることが、最近、やっと多くなってきました。

さっきお話にもあったんですけれども、私は保育園も、小学校も、中学校も、高校も、大学も全部世田谷にある学校に通っていて、ボランティアや児童館でのバイトも全部世田谷区で、本当にたくさんお世話になっています。自分自身がこうやって何か世田谷区の人になれることがある、この協議会に参加させていただけることになったので、そういうところで得られた若者の意見を自分の意見も織り交ぜながら伝えていけたらいいなと思います。よろしく願いします。

会長 ありがとうございます。

続きまして、お願いいたします。

委員 私は今、「情熱せたがや、始めました。」という「ねつせた！」で、若者主体で活動しております。あとは、アップスのインターンも行っておりまして、直接若者から意見を聞く機会がたくさんあると思っています。このような活動をしていると、本当に自分らしく当たりとか、第三の居場所というのを中高生が求めているというのを日頃からすごく感じています。コロナ禍でも活動ができていますので、これらの自分の経験を生かしながら、この青少協で貢献できる部分がたくさんあるんじゃないかなと思っています。私自身も今大学に通っているので、「若者の視点で」という検討テーマの部分は大きく貢献できる部分がたくさんあると思っています。よろしく願いします。

会長 ありがとうございます。

それでは、今度は専門委員の方々にお話を伺いたいと思います。

委員 若者と咲かせるネットワーク・せたがやからきました近藤三知香と申します。よろしく願いします。

今日、急にお願いをして、資料を印刷して入れてもらったんですが、若者の声を拾うプロジェクトというプロジェクトを始めたところです。若者たちの居場所で、若者の声を支

援をする職員の方、そばにいる大人の人が聞いて、それを拾って、声を拾っただけではなくて、その状況で支援する人が感じたことを集めて、集めたところでみんなでそれを交流しようというプロジェクトです。まずは耳を傾けることが私は一番だと思います。そういう意味では、ここの場所に当事者がいっぱい出られるわけではないので、そういう日常で言った何気ない言葉を、そばにいる大人があっという間に言ったんだなど、耳を傾けられる自分になるというのがまず大事なかなと思って、こういうプロジェクトをやっています。今度、8月26日にZoomで交流会をしますので、フェイスブック等でお知らせいたしますので、よかったですらご参加ください。

私は、若者と咲かせるネットワーク・せたがやに参加しているんですが、自分のライフワークとしては、NPO法人子ども劇場せたがやという団体で、子どもと文化と地域をコーディネートするという活動をもうずっと30年ぐらいやっております。ですから、私のライフワークは、子どもから大人までアートでつながる世田谷にということで、若者に限らずと思っております。ですから、ここに関わるのも、社会包摂という言葉がありますけれども、みんなで一緒に暮らしていけるようになればいいなと思っておりますので、よろしくをお願いします。

それから、前期のモデル事業を読みましたら、引き続きやると書いてあったんですが、それは、私たち委員がモデル事業をやるということなんでしょうか。 以上です。

会長 ありがとうございます。小委員会で、また検討していきますので、よろしくお願いいたします。

続きまして、よろしくお願いいたします。

委員 私も今年度からこちらに参加させていただくことになって、検討テーマを拝見させていただいて、「若者とともに変わる地域～若者の視点で」ということで、今、若者がどう地域と関わろうと思っているのかとか、そもそも地域のことを知っているのかというところに、すごく興味というか気になっているところがあります。私たちのサポートステーションは、これから働きたいということで相談に来る若者が多いんですけども、そもそも地域とのつながりが希薄だったり、そもそも働いていないことで、地域にあまり興味、関心がないというか、自分が孤立してしまっているような状況の方が多いと思うので、そもそも地域とのつながりが全くないような感じなんです。ただ、今コロナ禍でなかなか活動をやりにくいですが、ボランティア活動などをして役割を与えていけば、彼らも自分が持っている力を生かして人の役に立てるとか、そういう自分の今後につながる

る自信が持てる場合は結構地域にもあると感じています。本人だけでは分からない気づきが、地域との関わりだったり、地域での活動の中で見えてくるといふことがあるので、地域が持っている力だとか、彼らが自信をつけて社会に一步踏み出せる場が地域にはあると思っています。今のコロナ禍でなかなか活動も制限されている中で、モデル事業から、今後の若者のために何か施策が生まれていけばなと思っています。私も微力ながら貢献させていただければなと考えています。

簡単ですが、以上になります。

会長 ありがとうございます。

続きまして、お願いいたします。

委員 新井です。今回から専門委員として参加させていただいております。よろしくお願い致します。

今回のテーマを見て、もちろん難しいなと思いつつ、僕なりに今少し考えてみたんですが、やっぱり地域というワードがすごく便利だなと思っていて、言っているようで言っていないようなところもあるかなというのがあって、地域というのはそもそもあるのかとか、もっと言うと、若者という概念自体がそもそもあるのかどうなのかみたいなところを批判的に考えてみるのも面白いかなと思っています。なので、結局は、やっぱり一人一人の人間に対するつながりというところになってくるし、だからこそ、そこに偉い、偉くないとかはもはやなくて、関係なしにフラットに徹していきたいという気持ちはすごくあります。

とはいっても、やっぱり同じ人間同士、意見が食い違うこともあるし、人は人だよねじゃないなくて、これは守らなきゃいけないよねというルールというのは絶対あると思うんです。だからこそ、お互いが成長していくために、もしくは自分を確認していくために、今後、学び合いというのが必要になってくるんじゃないかなと。だから、やっぱり対話できる場というのが個人的にはすごく必要だなと思っています。コロナ前までは、それがリアルという場だったんですけども、今だとオンラインという場になっていたりするんですが、もうちょっと経つと多分それがハイブリッドになって、掛け算して、リアルアンドオンラインという形になってくるかなと思います。なので、僕はハイブリッドの、リアルアンドオンラインの対話ができる場づくりというのを、今までやってきた商店街チームとかと今後一緒にやって、モデル事業化をしていきたいなと思っています。

以上です。

会長 ありがとうございます。

続きまして、お願いいたします。

委員 廣岡です。私は前期も参加させていただいたので、今期のテーマを拝見しまして、後ろの「若者の視点で」というところに前期のテーマが集約されているのかなと感じました。若者の意見表明、参加・参画というところに関しては、やっぱり若者の意見であったり、そういうものが反映できるようなものを考えていくということになっていくんだらうなと思います。

前期の話になるんですけども、やはりコロナ禍になってから、活動の難しさというのを本当に痛感した次第です。その難しさというのは何だらうなと思ったときに、これまでもお話がありましたけれども、やっぱり接点を持てなくなっている状況があります。地域では、いろんな行事やイベントも中止、延期というのがありますし、学校関係では休校であったり、オンライン化に切り替わったりという中で、人と人との接点が今までのように持てなくなってきたとなると、そこにいかに情報を届けていくかというのもそうですし、何かのきっかけづくりであったり、刺激であったり、そういったものを提供していくのも難しい状況にあるなと思います。ですので、接点をどうやってつくっていくかというのが、何か回路を見出せたらいいなと思います。

ただ、今日も「ねつせた！」の取組とか、青少年交流センターの月1会議のお話だったり、そういう取組も今ありますので、実際に若者の声を拾っていけるような取組をやっていけたらいいなと思っています。

以上になります。

会長 ありがとうございます。

続きまして、お願いいたします。

委員 日々多くの若者と接している中で、何か地域のことを考えたいと思っている若者は一定数はいるんだらうなと想像しています。ただし、多くの若者は、地域と言われたときに多分それは人ごとだと思います。若者が地域を変えたいと思っているかどうかそのものも議論する必要はあるんでしょうけれども、若者と一緒に地域をつくっていこうといったときには、若者は地域を自分ごととして捉えると。そのためには、そういったモデルとなるような大人の方との出会いがすごく大切なきっかけになるんじゃないかなと思っています。そういう意味では、地域で活動されている大人の方とのいい出会いを上手につくっていく必要があるのではないかなと思いますし、青少年交流センターとしても取り組みた

いなと思っています。

以上です。

会長 ありがとうございます。よろしくお願いいたします。

それでは、前期のときに小委員会をリードして下さった委員からお願いいたします。

委員 浦和大学の林です。よろしくお願いいたします。

前期に引き続き、そして、この間ずっと、6年か7年ぐらいこの青少協に関わらせていただいております。自分の研究テーマとして、子どもの参加・参画とか、子どもの権利保障とか、あと主権者教育とかをずっとやってきている中で、実は世田谷は結構積極的にそこをやっているんだよというところを、私が住んでいるのは町田市なんですけれども、世田谷はすごいなと思ったりもしております。今日も、こういう場でいろいろと緊張されている部分はあるのかなと思いますが、ある意味、当事者世代である大学生が若者委員として、今回3名、前回は委員として入っていただいているんですけれども、そこは非常に大事なことだなと思っております。

今日、配られている資料の中の報告書を後で見ただけであればと思うんですけれども、前期に参加されていた若者委員が、21ページのコラムを書いているので、ちょっと読ませていただきます。

「最初は授業の一環でボランティア活動に関わっていて、その縁もあってか、子ども・青少年協議会の若者委員として参加してほしいという話が舞い込んできた。正直なところ、私はその若者委員の必要性がよく分からなかった。参加する人たちは大人であり、私は成績も芳しくないただの大学生だ。『若者の意見を聞きたい』というのは建前ばかりで、数合わせ的な立ち位置なのかと考えていたほどであった。しかし、いざ協議会に参加すると、それらの不安や疑念は全てなくなっていた。それは想像していたよりはるかに多くの意見を求められ、自分がこの場に必要とされているということを体感したからであった。純粋な私自身の意見が、この場には求められていたのだ」というように、結構いろいろと思いが書いてあるんですけれども、ここに来ていただいているのは、先生に言われたからとか、何かいろいろあるのかもしれませんが、数合わせ的な立場であったり、お飾り的なものではなくて、純粋に若者として、この世田谷区をよりよくするためにはどうしていったらいいのかなというところを、いろんな意見があると思いますけれども、1人の立場で自分の思いを本当に率直に言っていただきたいなと思っております。今日こういう場で皆さんもすごく緊張していて固いイメージがあるんですけれども、今後、小委員

会をやっていくにつれて、そこは実際はそうじゃなかったなど、きっと2年後ぐらいにやっと分かるのかなと思います。本当は、最初の頃から分かるようにする工夫が必要なのかなと思いつつも、ある意味、こういう行政系の会議体の中で、きちんと当事者世代、特に大学生という世代が入っているというのはほかの自治体でもほとんどないことで、そこも長年、世田谷区はずっとやってきています。これは言っているのかなとか、うまく言えないのかなとか、いろいろ言いにくい部分とかもあるのかもしれませんが、ぜひそこは積極的に臆することなく発言していただきたいです。私たち大人側　大人側という言い方も失礼かもしれませんが、ほかのメンバーも、若者はどう思っているかということをごんごん聞いていきたいと思っておりますので、ぜひそこは積極的な発言をと思っております。

また、先ほどの質問の中で、前期の引継ぎのモデル事業はどうなるのかというご質問がありました。この2年間、特に昨年度はコロナということもあって、モデル事業が十分にできなかったというところがあります。基本的にはモデル事業を行って、さらにそれを翌年度以降に実際の事業化につなげていこうというためのモデル事業なのですが、そこができていなかったところがあります。できる限り、前年度期のモデル事業を引き継いでいながら、でも、メンバーが替わっていますので、新しいやり方とか、アプローチの仕方があると思います。または別の形というものもあるかと思っておりますので、その部分は小委員会でぜひ皆さんとともに話していきたいなと思っております。

ただ、入澤会長から冒頭の説明のところでもありましたように、令和5年度の事業化に結びつけて実現していくためには、来年度、要は来年、2022年度の秋までにある程度の具体案がまとまっていると、予算の話においても非常にやりやすいと思います。要は今まで1年間議論して、次年度にモデル事業をスタートするというのをやっていたんですけども、今回は、前期にやれていなかったモデル事業があるので、逆にそこをうまく使いながら、今年度の後半ぐらいからモデル事業ができると、来年度の夏ぐらいまでに、ある程度の報告書というか提言が何となくまとまってくるのではないかとと思っております。

あと、もう1点です。今回、行政系の会議の中で、今日も議員の先生4名に来ていただいています。まさに区民を代表する議員という立場で、若者とか子どもの声をどう区政に反映させていくのかということがあると思っておりますので、外からお目つけ役というわけではなくて、一緒に活動していくメンバーとして、ぜひ今後も積極的に参加をしていただきたいと思っております。小委員会は、今後、ほぼ毎月あるんですけども、ぜひこの協議会だけ

じゃなくて、小委員会、ご都合がつく限り、オブザーバーとしてご参加いただいて、世田谷の子ども、若者世代がどう感じているのか、今何をしようと思っているのかを感じ取っていただき、ぜひそれを議会の中でもうまく反映していただけると、この協議会としても、今後の予算というところも含めて、後押ししていただける人たち、味方がいると非常にありがたいなと思っております。いろいろとご意見や、違う考え方はもちろんあると思いますので、いや、でもここは難しいよねというのを逆な形で提案等をしていただけると非常にいいのかなと思っております。

コロナ禍ということもあって、いろいろと難しい部分はありながら、今回も「ねつせた！」のメンバーも含めて、SNSを使った、あるいはハイブリッドという話も、先ほど新井委員からもありましたけれども、そういう新しいやり方が今後はどんどんと生まれてくるし、そこを逆にやっていかなければいけない。今、世田谷区はほかの自治体と比べるとそれを結構先進的にやっている自治体ではありますので、世田谷ができるモデルを少なくとも国内の中でどんどんと発信できていけたらなと思っております。よろしく願いいたします。

会長 ありがとうございます。

最後に、副会長からご意見をお話しいただければと思います。

副会長 54歳、体はついていきませんが、気持ちは若者だと思っております。縁があって、今期から子ども・青少年協議会に参加させていただくことになりました。

実は、私自身は障害のある方々の社会参加を支援する、それが専門なんです。森田先生からのやってよという一言で、この青少年協議会に参加させていただくことになったんですけども、今日の先ほどのご報告をお伺いしまして、その理由が分かりました。多くの部分が障害のある方々の社会参加の支援と重なります。居場所の問題、就労の問題、ひきこもりの問題、孤立の問題等々、随分重なるなということが分かりました。

実は今日の午前中は、また別の自治体の自立支援協議会の就労支援専門部会のオンラインの会議で、2時間いろいろかんかんがくがくとやってきたわけですけども、協議会の議論をその区の施策に上げていくというのは物すごいエネルギーが必要なんです。お話を伺っていると、この子ども・青少年協議会は、ここでやったことが施策に反映されていく、非常にうらやましいなと思っておりますので、ぜひそのあたりを私自身も勉強させていただきたいなと思えました。

今期のテーマが、「若者とともに変わる地域」というテーマでいただいたわけですが、私なりに考えていったときに、これも先ほどから何人かの委員の方々からお話がありましたけれども、地域というのは何か、地域は変わらなきゃいけないのか、そんなところがまず大前提としてあるんだろうと思うんです。変わらないとどうなるか、変わらないと破滅します。変わらない、変化しない、これはシステム思考、システム理論が言っていることなんですけれども、人間の体も、組織も、国も停滞は破滅に結びつきます。皆さん、今日ここにいられている方々は、昨日の皆さんと同じですか、違いますよね。食べているものもありますし、排泄しているものもある、着ているものも違う、また、こうやって話を聞く中で少しずついろんなものを吸収して変わりつつある、だから、存在し続けることができるわけです。

地域の中で、若者とともに変わるという話がありましたけれども、先ほど新井委員でしたか、若者との対話が必要だとおっしゃっていましたが、まさにやり取りが必要です。やり取りをすることによって、地域が存続できるんだろうと思って伺ってありました。そこで必要なのが対話なんです。対話というのは議論ではないです。意味をやり取りする、あなたの生きている世界を教えてよ、それで私たちの世界を一緒につくり上げていく、こういうことがこの協議体の中でできるのかなと思って伺ってありました。

教育委員会の皆さんと、今年度から医療的ケアが必要なお子さんたちの登校、出席を、OriHimeという分身ロボットを使ってお手伝いする、プロジェクトを始めさせていただいています。今は給田小学校でOriHimeの支援をさせていただいておりますけれども、担任の先生からお伺いしているところによりますと、これは学校に通えない不登校のお子さんにもすごく有効ですよというふうなお声が上がってきているんです。先ほど林先生からもありましたけれども、コミュニケーションの方法は、これからどんどん変わっていきます。こういったものを積極的に取り入れてくださっているのが世田谷だと思っておりますので、そんな取組がどんどん広がっていき、施策が変わっていき、まさに世田谷から発信していく大きなメッセージになっていくのかなと思っています。

私自身も勉強させていただく若者でございますので、どうぞよろしくお願いいたします。

会長 どうもありがとうございました。若者を強調されましたが、この中で私が一番年上でございます。年齢は申しませんが、森田先生と同じ年でございますが、それでお分かりになると思います。

各委員からご意見をいただきました。皆さんからご質問がありましたら、まだちょっと時間がありますので、お話しただけですでしょうか。1回目ですから緊張しているかもしれないけれども、せっかくでございますので、ぜひ、お願いします。

第1回目、各委員の熱い思いがありました。今後のテーマについても、取組をどのようにしたらいいかという大きなヒントもたくさんあったと思います。皆さんの意見を洗い出しながら、今後、進めていきたいと思えます。

今回、テーマに対してご意見がございました。このテーマを検討するに当たっては、各委員の方々からご意見がありましたように、大人と若者の信頼関係がなければ駄目だと、それから、若者と大人がパートナーとして接していくべきだと。そして、「若者ととともに変わる地域」、サブタイトルの「若者の視点で」に力点を置いていけば、このプロジェクトは、テーマは充実するのではないかというようなことが読み取れました。様々な皆様のご意見を今後の検討課題といたしまして、詳しくは小委員会に引き継いでいきたいと思っております。

モデル事業について、やるのですかというご質問もありましたが、モデル事業は、一部見学等に行って調査もしたりしたのですが、3つの目的は達成できなかった。モデル事業をぜひやっていって、若者と地域を結ぶ役割を果たしていければと思っております。皆さんの活発な意見が今後もずっと続きますように、冒頭申し上げましたが、この会を充実したものにしていきたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

それでは以上で議事を終了したいと思えます。進行を事務局にお返ししたいと思えます。今後ともどうぞよろしく願いいたします。

事務局 会長、そして皆様、どうもありがとうございました。

それでは、事務局よりお知らせになります。次回の協議会は、次第の下にございます今後の予定というところでございます。一番下、12月22日水曜日が次回の協議会ということに予定しております。また時期が近づいてまいりましたら、開催通知をお送りさせていただきます。

また、小委員会でございますが、第1回、第2回、第3回の開催通知は机上に配付しておりますので、小委員会のメンバーの方はご確認くださいようよろしく願いいたします。

それでは最後に、事務局を代表しまして、子ども・若者部長の柳澤よりご挨拶申し上げます。

事務局 子ども・若者部長の柳澤でございます。本日は、皆様、大変お忙しい中、ご出席いただきまして、また、それぞれのお立場から貴重なご意見をいただきまして、本当にありがとうございます。

また、コロナ禍の若者の影響についても、様々ご報告をいただいたところでございます。さらに、テーマについてもいろいろご意見をいただきました。事務局といたしましても、調査、審議については精いっぱいサポートを努めさせていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。若者の視点や若者の力が活かされた地域をつくっていけるよう、これから2年間、活発なご議論をいただきたいと思っております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

本日は、お忙しい中、ご出席いただきまして、ありがとうございました。

事務局 それでは、以上をもちまして令和3年 - 4年度期第1回世田谷区子ども・青少年協議会を閉会いたします。本日はありがとうございました。

午後3時55分閉会